

テーマ「3世代がどうつながるか」

①3世代がつながることの必要性について

「3世代がつながるとどのような利点があるのか」

- 年配の方も子供と交流して一人の時間にならずに済むという利点もある。
- 10軒程度、小さくつながることが大事。災害があつてから「はじめまして」では助け合えない。近くで顔がわかっているが大事では。
- ひきこもりも社会問題になってきている。ひきこもってからでは動きにくい。地域のつながりがあることでひきこもりも防止できるのでは。
- 生活の知恵の伝承。子供に伝えてあげられる。いいものは途切れないのが重要。
- 第二第三世代は知り合いが地域にできて安心して生活できる。
- 情報。互いの世代が知らないこと。若い世代が知らないこと。「自分がどのように老いていくのか」「昔からの生活の知恵」「インターネットなどを活用した新たな情報発信の方法」など知らないことを関わることで補いあうことができるのでは。

②世代を超えて人が集まれる場の作り方

「世代を超えて人が集まれる場をどのようにつくるか」

「既にある集まれる場を有効活用しながら、どのような効果的な動きができるか」

【参加しやすいようにするために、活動にひと工夫を】

- 現役世代が忙しい。土日だけなら手伝えるという方も。運動会などは手伝ってもいいという世代もある。
- 子どもが集まれるものが欲しい。子供が集まりやすいものとは？ニーズを把握すべき。
- イベントの時にボランティアとして若い人を呼ぶ。「毎回来なくても良い」とアピールしながら、少しずつ入ってもらおうが大事。
- 挨拶が大事。
- イベントをやるときはベテランの活動に新人が入ることであまく回せるのでは？

【現在の活動を参考にしながら、世代交流に結びつけよう】

- 増尾西小学校では、運動会でテントが子供達にもつけられた。こういう動きが地域としても協力できないか？
- きつね山サロンなどでおいしいコーヒーを淹れられる場。それを安く飲める場。ファミリーマートなどで入れ替えた中古品など安く購入できないかな？
- パトロール。大人がやっているものだが、子供参加型にして、子供を中間世代が連れて行くことにより、話す機会が増えていくのでは？
- 防災訓練をイベント化して、いろんなことをくっつけてやれば、人が集まってくるのではないかな。
- 親子でクッキング。人気が高い。これに年配の方が加わるとよりよいのではないだろうか？これを機会に父として包丁を持てるようになった。
- 子どもの遊び場。大人が集えるところ。一緒にできればいいかな。
- ポッチャ。もっと広いところでやったら人も集まって面白いのではないかな？

【さまざまな活動、情報を一体的に発信できる方法を考えよう】

- 増尾地区には様々な主体から多くのイベントがある。そういうことをトータルでコーディネ

ネットできる人が必要では？

- 地域に何があるのか。その情報を発信することが有効活用につながる。
- 全体の年間スケジュールを作ってみては？
- 増尾西小学校。すくすくメールの活用。市との連携により、そういうものも作れればと思う。
- ボランティアの募集の仕方が課題。回覧、掲示板。見ている方が少ない。インターネットやSNS（フェイスブックやラインなど）の活用も検討しては

③もっと！あるもの探し

「資料以外の活動でも、世代を超えた活動があるかな」

- スーパーや企業のイベントなどいまある場所で何かができれば。
- 消防団は有望な若者が集っている。
- ジムに高齢の方は結構来ている。そこで、交流の場がもてればいいな。

まとめ

もっと、このような意見交換を積極的に行うことが大事。

多世代で呑む場を設けることも必要。

若い世代はどこの世代なのか。60代も若い世代という感覚も大事。

年配の方からの学びは多いと思う。

多世代の交流がない地域は犯罪率が高くなる。おじいちゃんおばあちゃんの孫への愛情をかける場。それが地域をいい方向へつながる。

告知の仕方。SNSが一番有効。それも考えていくべき。

災害、防犯。地域安全マップを柏市で13年前に作り始めた。それをつくるプロセスでも地域連携が大事との話が出ていた。地域連携の大切さを今回の台風の件で強く感じた。

他人事にしないということを伝えていくべきでは。

これを無駄にしたくないので、この意見交換の内容を地域に発信していければと思う。

今日出た意見を運営に具体的な方策として活かしていくための検討の場が必要。

参考資料

- ・「増尾地域のあるもの探し」世代を超えた活動編
- ・第4次地域健康福祉活動計画「7つの取り組み」